

リレー随筆

つ ぶ や き

鹿児島大学病院 米澤 英之

パソコンの前で数日間粘ってみたけれど、白紙のWordの向こうから随筆のネタがやってくることは終ぞなかったので、ネタ探しにSNSの自分の投稿をぼんやり眺めることに。僕は小洒落たものが性に合わない人間なので、Facebookは登録してたった数回投稿しただけで使わなくなってしまったし、Instagramなんてアイコンからして洒落ているアプリは開いたこともない。Facebookは「いいこと」を書かなければならないような雰囲気があるんだか苦手だし、そもそも自己表現のツールで空気を読まなければならないというのも何だか妙な話だ。それに比べてTwitterの雑然としたというか、あんまり敷居が高くない、好きなことを書ける感じは気に入っている。好きなことを書きすぎて、トラブルになる人もいるけれど。それはそれとして、なんとかそこから随筆のネタを探してみよう。

2018年4月6日 リツイート

「鹿児島市の大型温泉施設『いろはの湯』が、今年9月末で閉館することになりました。」

これは見た瞬間、衝撃的で思わずリツイートしてしまった記事だ。いろはの湯は大学の友人に誘われてからよく行くようになった、東開町のちょっと大きめの温泉施設だ。学生の頃から数カ月ごとに行っているの、今ではすっかり思い出深い場所となっている。26年も生きてると、いろんなものが無くなっていく。鴨池にあった美味しい中華料理屋も今はバイク屋になってしまったし、近所の集合団地もなんだか寂れてしまった。そうい

え、閉店する前にいろはの湯に行こうって友達と言っていたのだけど、行けていないなあ。また誘ってみよう。

2018年3月2日

「沖縄あちー。ヒートテック要らねー。」

これは今年の3月に沖縄で開かれた、日本老年医学会の学会発表に行った時のつぶやき。沖縄とはいえさすがに3月はまだ寒かろうと思ひ、半袖のヒートテックで過ごしていたけれど、噴き出す汗たるや。さすがは南国。同じ南国のくくりなのに、鹿児島は雪も積もるし、寒いのが苦手な僕に言わせれば、もう少し沖縄を見習ってほしいところだ。学会では「致死性不整脈の原因として抗認知症薬の関与が疑われた超高齢者の2例」というタイトルで発表させていただいた。PowerPointの「発表者ツール」という、いわゆるカンニングペーパーのようなものが使えると思っていたのだが、壇上に立ってそれが使えないと分かったときはさすがに焦った。とりあえず覚えている限りで発表したのだが、何度か予行演習していた甲斐あってか及第点くらいの発表はできた気がする。何事も練習が大事だ。発表後に少しだけ時間があつたため、美ら海水族館まで行って見たのだが、あの規模の水族館に行くのは初めてだったので結構楽しかった。感動を言葉で表現するのが苦手なので、いつも「楽しかった」とか「良かった」で済ましてしまうのだけれど。最近の言い方だと、こういう時に「エモい」という言葉を使うのだろうか。美ら海水族館エモいわ～。

2017年5月1日

「今日は珍しく明るい時間に帰れたから、カレーでも作ってみるかと思っていたのだけれど、こんなに時間のかかる料理だったの・・・？」

大学を卒業するまでずっと実家暮らしだったので、研修が始まって初めて家事や料理をするようになった。研修医になって間もない頃、友達に「米炊いたことないんだけど・・・。」と言ったら、「お前“米澤”のくせに米も炊けないのか。」と言われた。家事をするようになって思ったことは、とにかく時間がかかるということだ。特に料理が面倒でしょうがない。CMなんかでよくやっている「野菜と絡めて炒めるだけ！」みたいな中華の素も、「調理時間15分」と書いてあるのに実際には40分くらいかかる。野菜を洗ったり、切ったりするので20分くらいかかるのだ。カレーを作ったときはもっとかかった。料理をするのは大変だ。自炊をするようになってから、「ご飯まだ？」という言葉は言わなくなった。しかし、料理は大変だが、できるようになってくると自分のスキルがアップしているみたいで、なんだか楽しい。この前は創味シャンタンを使ってみたのだけれど、「お！創味シャンタンなんて、料理上級者が使う調味料みたいだなあ。」と思った。そうやってしたり顔で作ったトマトと卵の炒め物は、信じられないくらい不味かった。目玉焼きを焦がしたりとか、塩の分量を間違えたりとか、そんなマンガみたいな失敗をしながらも、自己研鑽と思ってできる限り料理をしている。まだ沢山余っている創味シャンタンも、そのうち使いこなせるようになりたい。

2018年8月17日

「夜光虫というものを一目見てみたいと思って、ひとり夜の海岸に向かったんだけど、辺り暗すぎるし、波の音大きいしで、恐ろしくて5分くらいで帰ってきた。」

夜光虫というものをご存知だろうか？夜光

虫とは、海洋性プランクトンの一種で、蛍が光るのと同じ原理で物理刺激によって自ら発光するらしい。発生時期は春から秋と意外と長く、大量発生した夜光虫が海岸などに集まると、波打ち際が青く光って見えるそうだ。僕の好きな作曲家の歌詞によく出てくるので一度見てみたいと思い、ちょうど8月に奄美で研修していたので、夜にひとり海岸に行ってみた。灯りが無い方がよく見えるだろうと、街灯のないところを歩いていたのだが、これが怖いものなの。台風が近づいていたせいか、波の音もびっくりするくらい大きいし、茂みからはハブが飛び出してきやしないかと気が気ではなかった。暗いところは嫌いではないし、ホラー映画も苦手でもない自分がこんなに恐怖を感じるとは思っていなかったもので、意外な体験だった。その後、どうしても夜光虫が見てみたかったので、ひとり夜にホノホシ海岸という場所に向かったのだが、そっちの方が真暗すぎて、もはや車からも降りられなかった。もちろん、夜光虫も見ることができなかった。星はとっても綺麗だったけれど。

振り返ってみると、ここ2年間はずいぶんいろんな経験をしてきたように思う。ここには書かなかったけれど、研修が始まって医者としてもいろんな体験をしたし、よかったと思うこともあれば、ショックだったことも沢山あった。初めは新鮮に感じたことも、少しずつ慣れてしまって、面倒に感じたり油断してしまったりすることも多くなってきたので、たまにはこうやって過去の自分がどんなことを考えていたか振り返る時間を、ときどき作ってあげたいな。

次号は、鹿児島大学病院の増田圭亮先生のご執筆です。  
(編集委員会)